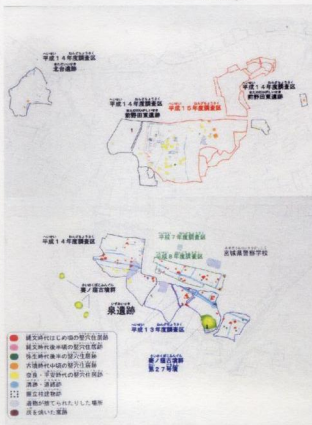


## 遺構配置図

V-2-⑥



V-2-⑥



### 古墳 (兼ノ福古墳群第27号墳)

古墳とは、いまから約1700年から1300年くらい前にかけてさかんに作られた墓所（墓の有力者）のお墓です。  
 古墳群では、1400年ほど前に作られたと推定される古墳（兼ノ福第27号墳）が見つかりました。この古墳には「甕穴式石室」と呼ばれるお墓があり、中には鉄製の高麗や朱の瓦（板瓦）が見つっています。

V-2-⑦

# むずかしいことば

V-3



### 土師器

粘土を土鍋の形を焼けて、煮っ払い煮炊き（粘土で形を作りそのまま焼いたもの）の土器のことです。粘土を土鍋のような形に焼くだけで、塗料や土が固まっているのが特徴です。煎餅の生地の形で使う土器として作られました。ものも煮炊きする器、煮炊き用の器、ものを入れる風鉢や鉢、茶を飲むときに使う器などの種類があります。

V-3-①



### 土こう壺

当館に焼けた穴になくなった入をそのまま煮ただけの輪郭の形のお墓のことです。  
 土こう壺の形や塗料、その中から見つかった遺物などを調べ、どんな人のお墓だったのかなどを考えます。  
 土師器とは粘土を焼いた中ごろの土こう壺が見つっています。

V-3-②



### 須恵器

鎌倉年輪から伝わった焼き物のことで、ろくろで作られました。漆を塗って高いお墓で焼かれたため、黒く、濡れにくいのが特徴です。お墓の生活層にも作られました。お墓に（お墓の中に入れるもの）として作られたものもたくさんあります。  
 甕、風鉢、注、壺、盆のほか、瓶などの種類があります。奈良・平安時代にたくさん作られました。

V-3-③



### 掘立柱建物

お墓に穴を掘り、その穴に柱を立ててつくった建物のことです。  
 柱の穴が焼けていないのでどんな建物か推定してはわかりにくいことは分りませんが、家やお墓、家畜を入れる小塚などが考えられます。  
 奈良・平安時代にたくさん作られました。

V-3-④ H15-17